

GPSデータを活用した簡易なエコドライブ評価手法の開発

加藤秀樹、松橋啓介、近藤美則、小林伸治

(独立行政法人国立環境研究所 社会環境システム研究領域 交通・都市環境研究室)

エコドライブは運輸部門の温暖化対策の一つとして期待されている。運送業者などでは日常の運行での継続的な効果が報告されているが、一般ドライバーについては、エコドライブ講習会などで実施された講習受講前後の試験走行の比較から、約 10～20%の効果が報告されているものの、講習会後の日常走行における継続的なエコドライブの実施とその効果については、計測の難しさなどから十分に把握されていない。

そこで、本研究では、小型の GPS ロガーを用いた速度計測により、簡易に日常のエコドライブの実施状況を把握し、速度データとエンジンマップを用いた燃費推計を行うことで、日常走行におけるエコドライブ効果の評価を試みた。本評価手法をつくば市で実施したエコドライブ講習会の参加者 10 名に適用し、エコドライブ講習会前後、それぞれ 1 週間の日常走行を比較し、エコドライブ効果を解析した。その結果、都市内の幹線道路走行が中心と考えられる 300～1000m のショートトリップ（1 回の発進から停止まで）について、10 人中 4 人の被験者で有意（図中の※）な効果があること、参加者全体では約 3%の効果があることが認められた。

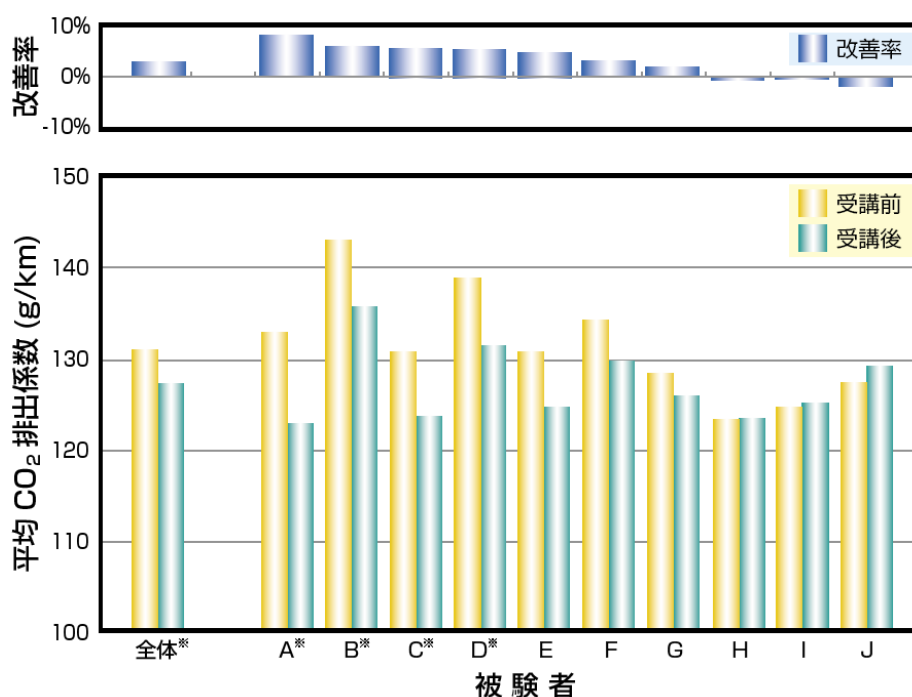


図 日常走行におけるエコドライブ効果

(ショートトリップ距離：300m～1,000m)